

# ●広域行政や市町村合併について もう一度明日の吉野を考えましょう

N P O 吉野総合研究所  
代表 西 沢 こうへい  
TEL・FAX 0746-34-5677  
<http://www.imj.ne.jp/nishizawa/>

<吉野のまちづくりについて皆で話しましょう>

## まちづくりをより効果的に

吉野では、過疎・高齢化が急激に進行しています。労働力の減少により税収が不足する一方、保険・医療・福祉サービスの需要が増大しています。また吉野の人口減少は激しく、効率的で質の高い公共サービスを実施することが非常に厳しい状況にあります。今後行政基盤を広げ強固にし、近隣町村と広域的な視点に立った交通網や公共施設整備などにより、まちづくりをより効果的に実施する必要があります。広域的な施策をおこなうについては、関係市町村による広域行政あるいは市町村合併が考えられます。

## 広域行政について

近隣市町村による広域行政については、たてまえは別として本質的には多数決による決定ではなく、全員一致を意志決定の暗黙の条件としています。複数の自治体が参加しているため、どこかの自治体の意見が多数決で負けてしまいましたというのでは理解が得られず、そもそもなぜ人口や財政規模に格差のある自治体のそれぞれが1票ずつなのかという議論から始まって、言うことを聞いてもらえないから脱退することさえ予想されます。その結果、皆が賛成することだけしか決められなくなり、利害対立の起こりにくいサービスの提供には適していますがそれ以上のことはできません。最近も吉野町・大淀町・下市町が、し尿処理施設を広域で進めておりましたが、それぞれの利害が調整できず吉野町が脱退しました。また広域行政は、議会や住民の目が十分に行き届かないので、非効率な事務がいつまでもなくならなかつたり、つまらない事件が起きたりします。

## 市町村合併はどう進むのか

つぎに市町村合併について、市町村は民主主義の基礎単位であり、最小政治単位で

す。市町村合併による規模拡大は行政の効率性を上げることです。民主主義にとっては、単位は小さいほど政治は理解されやすいので、好ましい。逆に効率性にとっては、一定の大きさになるほどコストは低くてすみます。そうなると、今の地域のまとまりを大事にして合併しないでいった方がいいのか、地域のまとまりを犠牲にしても広域的な整備による効率化を重視するのか、選択が生まれます。

合併することについてなかには、役場などが遠くなって今より不便になったり、中心部だけが発展して周辺部がさびれるのではと心配される方もあるでしょう。しかし、実際にはすでに吉野全体がさびれ疲弊しています。吉野に元気を取り戻すためには、的確な施策によるまちづくりを広域的に実施しなければなりません。また、行政区域が広すぎてきめ細かな行政サービスが行われないう意見もあります。きめ細かなサービスとは何でしょう、いわば地方自治におけるごく小さな利益誘導の姿を現しているのではないのでしょうか。住民の生活で身近な問題があれば役場に言っていけばいい。議員さんに口を利いてもらえばなおいいといった具合です。住民にとって役場はそうした存在であって、その意味で住民と役場の関係は近ければ近い方がいい。しかし本来の役場の仕事は、直接意識するようなものではありません。役場が仕事をしなければ住民生活に支障が出ることもあっても、仕事をしていればそれが当たり前のように感じるものであるはずで

## 吉野の明日を考える

大切なことは、合併しようとしまいと吉野のそれぞれの地域はそこに存在し、人々はその場所で暮らし続けるということです。いま吉野の人々にとって重要なことは、どのようなまちに暮りたいのか、またそのために何をすべきであるのか、明確な目標とそのための戦略を持つことです。吉野のこの暮らしを守り伝えていくという視点にたって、行政サービスのあり方、町民と行政の関係を見直すことです。大勢に振り回されることなく、自分たちの頭で判断することです。そのためには、行政関係者が的確で客観的な情報をどれだけ提供できるかにかかっています。おそらく真剣で熱のこもった議論が必要になるでしょう。

しかし、「吉野の明日」を考えるために惜しむ時間や労力などないのです。この地方とくに過疎地域に厳しい現在の社会情勢のもと、いま私たちが頑張らなければこの土地は残っても、私たちの守り育ててきた本来の吉野、私たちが愛した本当の吉野が、ある朝消えてしまっているかもしれません・・・・・・・・・・。

